

第11回全国少林寺拳法指導者研修会



中村講師による模擬授業に講師・受講生全員が参加した

第11回全国少林寺拳法指導者研修会（主催＝日本武道館、少林寺拳法連盟、後援＝スポーツ庁）が9月16日～18日の3日間、日本武道館研修センター（千葉県勝浦市）で、未経験者3名を含む34名の参加者が集まり実施された。

本研修会は、少林寺拳法の授業力向上と指導法の習得を目指し、中学、高等学校の教員や教職課程にある大学生等を対象に、全国的な少林寺拳法指導者の養成と資質向上に資する目的で行われた。

■ 1日目（9月16日）

はじめに野田千春^{のだちる}少林寺拳法連盟理事が挨拶に立ち、「現在、学校現場における指導法は、生徒が主体的・対話的に学ぶ方法により、総合的な思考力や表現力を養い、ひいてはそれが生きる力につながることを目的としています。少林寺拳法には組手主体という教えがあり、相手とともに上達することが大切としています。この考え方は、主体的・対話的な学びにふさわしいものであると考えています。皆様で協力し合って良い研修会を作り上げてください」と述べた。

次に和田健^{わたたけし}日本武道館振興課長が挨拶に立ち、「中学校武道必修化の完全実施から11年が経過

しました。この研修会は、その間に選択されてきた指導法や経験を講師から教わることのできる機会です。周りの仲間と協力して実りある研修会にしてください」と述べた。

開講式終了後、高坂正治^{こうさかまさひろ}講師による講義「中学校武道授業で伝えたいこと」を行い、本研修会の目的を、「少林寺拳法の特性について自分自身の言葉で明確・具体的・簡潔に説明できるようになること」とした。

その後、村瀬晃啓^{むらせあきひろ}助講師・谷聡士^{たにさとし}助講師が「礼法、基本動作、基本となる技Ⅰ」の実技を行い、結手・合掌礼などの礼法や、呼吸法・安座などの基本動作を参加者と共に確認した。

続いて、中村優一^{なかむらゆういち}講師が「『主体的・対話的で深い学び』の体験」の模擬授業を行った。生徒が主体的に少林寺拳法を学び、実感するための工夫として、手押し相撲やじゃんけんを補助運動として導入しているほか、流行の音楽に合わせて天地拳^{てんちけんたい}一系^{いっけい}を行っていることなどを紹介した。

■ 2日目（9月17日）

はじめに、高坂講師^{こうさか}が調息法^{ちようそく}、坐禅^{ざぜん}について紹介。「生徒がざわついているときに行うことで、集中を促すことができる」と説明した。

次に、^{くわじまあき}桑島亜紀講師による講義「特別支援学校の授業の実際」を行った。「少林寺拳法はあらゆる人に適応しやすい武道であり、特別支援学校に限らず教材として適している。子どもが自分の気持ちや配慮してほしいことを適切な言葉や態度で伝えるための力を育てたい」と述べた。

続いて、^{おいはし}小井寿史講師が「非認知能力を育てる指導と評価」の講義を行い、「今、社会で求められている創造社会に適応できる（＝非認知能力が高い）人物と、少林寺拳法が求めている人物像には重なるものがある」と述べた。

その後、習熟度に応じた各班に分かれ、各先生（受講者）の持ち味を活かした授業作りや、どの技をどう見せるか、少林寺拳法の特性について説明するための検討を行った。

昼食後はレベルに応じた実技指導を行い、初心



初心者班への実技指導

者班では、^{やすだとしゆき}安田智幸講師が中心となり基本動作について指導した。受講生に戸惑う様子が見受けられると、速やかにほかの講師がサポートに入り、質問にも時間をかけて丁寧に回答した。

最終日の演武発表の準備として、技能の評価方法や少林寺拳法の特性を考えるグループワークを行い、中学校の授業で実施するにふさわしい演武組成を各班で考えた。

続いて、安田講師による講義「支援体制の強化について」を行い、岡山県笠岡市では中学校9校のうち5校が少林寺拳法の授業を実施していることを紹介した。

その後、谷助講師が「安全管理について」の講義を行い、今の学校教育現場を知り常識を更新するために、先生同士で積極的に交流して情報交換をしましょうと呼びかけた。

■3日目（9月18日）

朝、主座・^{なかじまさき}中島正樹講師による^{ちんこんぎょう}鎮魂行で始まった。2日目までに各班で検討した演武組成をもとに、作成した指導案を元に、着眼点・ねらい・評価基準を口頭で発表した後、1班ずつ団体演武を行った。閉講式では修了証の授与の後、高坂講師が講師講評を述べ、和田健日本武道館振興課長が主催者挨拶を行い、閉会となった。

参加者インタビュー ^{よこやま しゅんた}横山 駿太 さん（南富良野町立南富良野中学校 保健体育科教員）

Q. 本研修会参加の経緯を教えてください。

「本校の武道授業では空手道を実施していたのですが、外部講師の方が転勤になり、授業継続が困難な状況になりました。いよいよ自分で武道を身につけなければならぬ、という背水の陣に立たされていたところ、この研修会の要項が回覧で回ってきたので、希望の光が見えたと思い、参加を決めました」

Q. 武道経験はありますか。

「専門はアルペンスキーで、中学校でも武道授業はありませんでしたし、武道経験はほぼありません」

Q. 少林寺拳法のイメージはどのようなものでしたか。

「中国の武道だと思っていました。道具を使うのか、ということも飛行機に乗る直前に調べましたし、会場に到着して他の参加者から合掌礼で迎えられた時は、とんでもないところへ来てしまったと思いました（笑）」

Q. 今後の授業予定を教えてください。

「6～8時間の授業予定で年間単元計画を作成しています。勝敗が重要ではないところは、少林寺拳法ならではの感じました。生徒が楽しめる少林寺拳法の授業を展開できたら、と思うと不安よりもワクワク感の方が勝っているかもしれません」

